

「サステイナブルな資本主義」を目指して

健康上の理由により、任期途中で退任することとなった中西経団連会長の想いに心を致すと誠に残念な気持ちでいっぱいである。幸いにも、前会長のご意向を踏まえ、突然のお願いにもかかわらず、経団連会長をお引き受けいただいた、住友化学の十倉会長には心からお礼を申し上げたい。記者会見において、なぜ会長を引き受けたのかとの質問に、「私の大好きな言葉は、『義』である。非常に悩んだが就任の要請を受けるとは、自分にとって『義』であると判断した」と答えられた十倉会長は、誠に「情」の人であり、微力ながら事務総長として全力で補佐してゆきたい。

経団連は、2020年11月「新成長戦略」を取りまとめた。私は、以前大学の恩師と同級生である何代か前の事務総長に、

「経団連の基本哲学は、ミルトン・フリードマンの『資本主義と自由』にあるように、原則として何事も民営で市場原理、競争にまかせた方が上手くいく、ということだ」と教えられたことがある。それは1980年代以降台頭した、「新自由主義」であり「小さな政府」という考え方である。この間、世界は基本的にこの線に沿って、経済活動が展開され、その結果、環境問題の深刻化や格差問題の顕在化を招き、このままでは資本主義そのものが崩壊しかねない状況を招いている。そこでこれまでの理念を根本的に見直し、「マルチステークホルダー」のニーズを受け止めて、「サステイナブルな資本主義」を確立していく必要がある。このような考え方に沿って取りまとめられたのが、「新成長戦略」である。ま

ずは、この戦略の実現が経団連の最大の課題である。



日本経済団体連合会
事務総長

久保田政一
くぼた まさかず

以前より、社業においてもこの「サステイナブルな資本主義」を追求してこられた。その意味においても中西経団連を発展的に継承していただくのに最もふさわしい方と考えている。

事務局の役割は、経済界の公正な意見をもとに政策を立案し、その実現に努め（Policy & Action）、日本経済の発展と国民生活の向上に寄与することにある。そのためにも、これまで以上に自由で開かれた事務局づくりに努力してゆく所存であり、引き続き会員企業の皆様のご支援、ご協力を強くお願いしたい。